

国立大学臨床検査技師教育協議会(国臨教) ホームページの開設 ～ 臨床検査分野における連携基盤として ～

松 井 弘 樹 ^{*1,6 §} 横 山 雄 起 ^{*2,6} 本 木 由香里 ^{*3,6}
末 永 弘 美 ^{*4,6} 勝 田 仁 ^{*5,6}

要 旨 近年、臨床検査分野を取り巻く環境は、検査技術の高度化・多様化に加え、AI やデータサイエンスの医療応用などにより大きく変化している。こうした状況の中で、臨床検査技師教育においては、教育・研究の質の向上とともに、大学や養成校の枠を超えた連携や情報共有の重要性が一層高まっている。

国立大学臨床検査技師教育協議会(国臨教)では、教育・研究における大学間連携の強化、病院検査部を含めた産学官連携の促進、将来を担う人材の確保、ならびに組織活動の持続可能性を支える情報基盤の構築を目的として、公式ホームページを開設した。本稿では、その開設の背景と目的、サイト構成および主なコンテンツを紹介するとともに、公開後のアクセス解析結果を基に、その活用状況と意義について検討した。本ホームページの情報は、すべての臨床検査技師養成校にとって有用な情報基盤となり得るものであり、活発に活用されることを望むものである。

キーワード 臨床検査技師教育、ホームページ、進学・キャリア支援、アクセス解析

I. はじめに

1. 国立大学臨床検査技師教育協議会(国臨教)とは

国臨教は、全国の国立大学における臨床検査技師教育の連携と協力を通じて、臨床検査技師の育

成および教育水準の向上に資することを目的として、1990年4月に設立された。2026年現在、臨床検査技師養成課程を有する21の国立大学が加盟している。国臨教は、臨床検査技師育成に関する調査研究、会員校間の教育・研究協力、その他の目的達成に必要な事業を行っている。

^{*1} 群馬大学大学院保健学研究科生体情報検査科学講座 [§] hmatsui@gunma-u.ac.jp

^{*2} 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体病態情報科学講座

^{*3} 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻基礎検査学講座

^{*4} 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻病態検査学講座

^{*5} 国臨教理事長・九州大学大学院医学研究院保健学部門検査技術科学分野

^{*6} 国臨教将来問題検討 WG (ホームページサブ WG)

2. 将来を見据えた臨床検査教育のあり方

—「予測可能な未来」と「予測不可能な未来」への対応—

近年、遺伝子検査技術の進展やビッグデータ解析、AI技術の医療応用などにより、臨床検査分野は急速に高度化・多様化している。これらの技術革新には、従来の延長線上で一定程度予測可能であったものがある一方、生成AIの登場のように予測が困難なものも含まれる。今後の臨床検査教育においては、「予測可能な未来」と「予測不可能な未来」の双方を見据えた教育・研究体制の構築が求められる。

1)「予測可能な未来への対応」としては、先進的研究・開発の推進を基盤に、学際的研究体制の構築および研究資金基盤の充実が重要である。臨床検査学の学問的アイデンティティは、「人体から得られる多様な生体情報を科学的に取得・解析・評価し、その結果を医療・保健・福祉に資する知見として提供するための、理論・方法・技術を探究する学問」と定義できると考える。また、臨床検査の医療における役割は、「疾患の診断・病態の評価・治療方針の決定・治療効果の評価・予後予測、さらには、未病段階における健康状態の評価や疾患発症リスクの予測、に資する生体情報を取得・解析・評価し、その成果を医療へ還元すること」である。さらに、臨床検査学の中核となる研究は、既存の「臨床検査技術の高精度化・高効率化」に加え、新規の「バイオマーカー（検査項目）、測定技術、解析技術の研究・開発」であり、その推進には、病院検査部を含めた学際的研究体制や企業・行政との連携が不可欠である。

2)「予測不可能な未来への対応」としては、臨床検査分野の多様性拡大が重要である。臨床検査技師教育を受けた人材が、医療現場にとどまらず、IT分野、マスメディア、行政など社会の多様な領域で専門性を発揮する事例も増えており、こうした広がりをもった人材育成が求められる。

3. 国臨教ホームページ開設の目的と活用

現在、日本臨床検査学教育協議会（日臨教）が取り組んでいる臨床検査学教育の重要課題の一つは、すべての臨床検査技師養成校における教育の

質の確保である。その実現に向けて、臨地実習を含めたカリキュラム改正が進められており、これらに関する制度的・実務的情報は日臨教ホームページを通じて広く発信されている。

一方で、前述の「予測可能な未来」および「予測不可能な未来」への対応という観点からは、先進的研究・開発の推進、学際的研究体制の構築、研究資金基盤の強化、さらには多様性を備えた高度専門人材の育成を含む、より長期的かつ発展的な取り組みが求められる。とりわけ、学部教育に加えて大学院教育と研究機能を併せ持つ国立大学には、臨床検査学を一つの学問体系として発展させる使命があり、教育・研究活動を体系的に可視化し、大学間および産官学の連携を促進する情報基盤の整備が不可欠である。

このような背景のもと、国臨教では、日臨教の活動を補完しつつ、教育・研究機能を基盤とした連携強化を目的として、新たに公式ホームページを開設した。主な目的は、教育・研究の連携促進、病院検査部を含む産官学連携の推進、将来を担う人材の確保、および国臨教活動の持続可能性を支えるデータベースの構築である。

本ホームページは、国立大学が有する研究・教育資源を可視化し共有することで、国立大学間のみならず、公立大学、私立大学、短期大学、専門学校、さらには臨床現場や関連機関との協働を促進し、臨床検査の発展に寄与することを目指している。

国臨教のホームページ (<https://kokurinkyo.org/>) は、2022年7月より将来問題検討WGを中心に検討を進め、約1年半の準備期間を経て、2024年4月に公開した(図1)。

本ホームページでは、「国立大学一覧」や「教員紹介」ページを通じて、各大学および教員の教育・研究分野に関する情報を集約・発信し、共同研究、教育連携、人事交流の促進を図っている。また、「高校生の皆さんへ」「大学院進学を目指す皆さんへ」などのページを設け、進学・キャリア選択に資する情報を体系的に提供し、将来を担う人材の確保を目指している。これらを通じて、「臨床検査教育の発展に資する情報基盤」としての活用を目



図1 国臨教ホームページ

指している。

II. 国臨教ホームページの構成と特徴

1. サイト構成

本ホームページは、以下の階層によって構成されている。

- ・トップページ
- ・国立大学臨床検査技師教育協議会とは
- ・国立大学一覧
- ・高校生の皆さんへ
- ・大学院進学を目指す皆さんへ
- ・国際交流
- ・お知らせ
- ・教員紹介(会員ページ→2026年1月より一般公開)
- ・会員校向け(会員ページ)

2. 各ページの内容と機能

国臨教紹介および国立大学一覧

「国立大学臨床検査技師教育協議会とは」では、国臨教の設立趣旨と理事長からの挨拶、沿革、組織図を掲載している。「国立大学一覧」では、臨床検査技師養成課程を有するすべての国立大学(21校、2024年1月時点)の一覧とリンク先を掲載している。この一覧を通じて、全国の国立大学臨床検査技師養成校を俯瞰し、興味関心のある大学へ直接アクセスすることが可能となっている。

高校生向けの進学支援

「高校生の皆さんへ」では、臨床検査技師に興味

を持つ高校生を対象として、職種の専門性を分かりやすく解説している。具体的には、臨床検査技師の仕事内容を「検体検査」「生理機能検査」に分けて解説し、1日の業務スケジュールも含めて業務の実際を紹介している。さらに、国立大学養成課程における教育方針の特色や、卒業後の進路先について集計データに基づいた情報を提供している。これにより、職種としての臨床検査技師への理解促進と、進学・キャリア選択における視野と意欲を膨らませるきっかけを作っている。

大学院への進学支援

「大学院進学を目指す皆さんへ」のページでは、大学院進学の意義や社会人大学院制度について説明するとともに、各大学の特色ある取り組みや研究分野の特徴を紹介している。また、修士課程、博士課程の学位取得後の進路先をデータで示すことにより、各進路の特性や違いを具体的に理解できる構成にしている。こうしたコンテンツにより、大学院進学によって得られる高度な研究スキルや発信能力の修得可能性を理解してもらい、将来設計の具体化を支援する内容となっている。

国際交流の促進

「国際交流」ページでは、各大学が他大学に紹介可能な交流先を掲載し、国際交流を拡げるためのネットワーク形成の支援を目的としている。加えて、会員校向けには「会員校代表者連絡先一覧」などの情報もアクセス可能とし、国際交流の実務的な支援体制も整えられている。教職員、学生に向

けて、国際的視野の拡大や各大学間の相互支援を可能とするプラットフォームとして機能している。

教員情報の可視化と利活用

「教員紹介」ページでは、各大学教員の教育における専門領域、研究内容に関する詳細情報を明示し、Research map や各研究室ホームページへのリンクを掲載している。各大学の教員情報を大学別に一元的に集約・提供することで、非常勤講師や講演会講師などの人材探索、共同研究パートナー探索、教員公募時の情報収集、教員自身のプロモーションなど、多目的な活用を可能としていることが本ホームページの大きな特徴である。なお、当初は国臨教会員のみの閲覧に制限していたが、2026年1月より一般公開し、多くの方に閲覧・活用いただけるよう、ネットワーク構築の場として整備した。

会員校向けの情報

「会員校向け」ページは国臨教の会員専用ページであり、国臨教の活動記録（総会、理事会、ワーキンググループ等の議事録や国臨教白書など）を体系的に掲載している。これにより、各大学の国臨教担当者が交代した際にも、過去の議論の流れを把握しやすくし、活動の継続性を担保している。また、国臨教の役員、各校の代表者、WGメンバーの連絡先など、連絡網の整備を行うことで、国臨教内における情報伝達の円滑化を図っている。

国臨教・各大学からの情報発信

「お知らせ」欄では、国臨教および各大学の最新のイベント情報や求人募集などを、公開日付とともに掲載している。こちらは各大学にホームページの管理権限者を設け、必要な情報を各大学の責任下で迅速に更新できる体制を構築している。

3. 公開後の運用と管理体制

公開後の運用および管理体制については、各校の国臨教 将来問題検討 WG メンバーの中からホームページ管理者を選任している。管理者は、教員の異動に伴う教員紹介ページの更新、教員公募や講演会の案内、ワーキンググループ等の議事録の掲載など、管理者権限で随時、更新できるようにしている。また、大学院や国際交流など、大規模な情報更新については、ホームページサブ WG が

情報を取りまとめ、年1回のタイミングで定期的に更新を行う体制としている。

4. ホームページの意義と位置づけ

以上より、今回のホームページ公開は、単なる情報揭示の手段にとどまらず、国臨教活動の可視化、大学間交流の活性化、教員・国際交流情報の集約と発信という複数の目的を実現する、機能的な情報基盤として位置付けられる。また、従来は個別の会議や文書で管理されていた情報を一元化し、会員校間のネットワーク形成と知識共有を促進する基盤として、組織運営の効率化と発展に寄与することが期待される。

III. 国臨教ホームページの閲覧状況と分析

1. 分析方法と対象期間

2024年4月の公開開始から2025年8月末までの期間における国臨教ホームページの閲覧状況について、Google アナリティクスを用いてアクセス解析を実施した。主要な分析指標として、ページビュー数、ユニークユーザー数、平均セッション時間、流入経路、ページ別アクセス状況等を対象とした。

2. 全体的なアクセス状況

分析期間中の総ページビュー数は32,487件、ユニークユーザー数は21,707人であった。ユーザー1人あたりの平均閲覧ページ数は約1.5ページであり、一定数のユーザーが複数のページを閲覧していることが確認された。これは、ホームページが提供する情報に対するユーザーの関心の高さと、サイト内の構成が適切であることを示していると考えられる。アクセス経路の分析では、Google や Yahoo! 等の検索エンジンを介した流入が全体の9割以上を占めていた。臨床検査技師教育や国立大学進学に関する情報を能動的に検索している利用者層に、効果的にアプローチができていていることを示している。

3. ページ別のアクセス状況

ページビュー数およびユニークユーザー数の上位ページは表1に示すとおりである。「国立大学一覧」「大学院進学を目指す皆さんへ」「高校生の皆さんへ」が上位を占めており、高校生、大学生、およ

表1 閲覧数・ユーザー数の内訳(2024年4月～2025年8月)

ページ名	ページビュー数	ユーザー数	平均滞在時間(秒)
国立大学一覧	8,807	6,335	31.9
大学院進学を目指す皆さんへ	5,884	4,146	70.5
トップページ	4,224	2,167	23.2
高校生の皆さんへ	1,756	1,293	52.5
国立大学臨床検査技師教育協議会とは	1,090	620	52.5
国際交流	641	310	26.9
教員紹介	622	209	128.3
お知らせ一覧	573	314	12.3

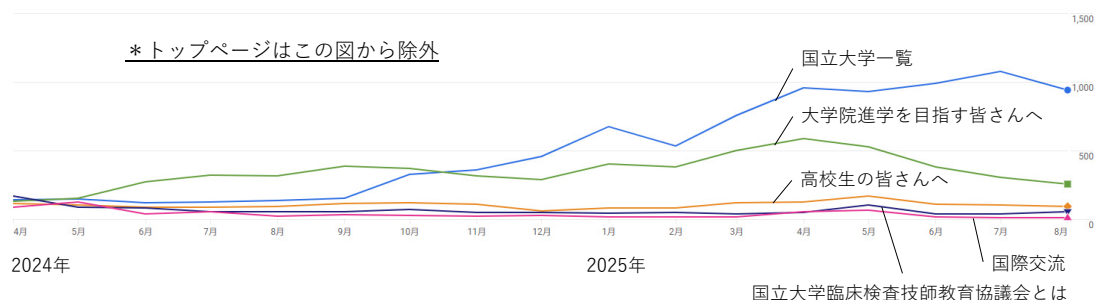


図2 ページごとの閲覧数の推移(月別)

びその保護者といったターゲット層が進路決定や臨床検査技師という職種に関する情報収集の手段として、本ホームページを活用していることを示している。

ページ別の平均滞在時間を分析した結果、「教員紹介」および「大学院進学を目指す皆さんへ」のページで比較的長い滞在時間が記録された。これは、各大学の教員情報を詳細に検討する研究者や、大学院進学を具体的に検討している学生・社会人等が、これらのページで提供される専門的な情報を精読していることを示唆している。

4. 各ページ別の閲覧数の時系列変化

各ページごとの閲覧数の推移を月別にまとめた(図2)。「国立大学一覧」のページは右肩上がりで見られ、閲覧数が増加しており、特に2024年10月を境にして増加、2025年1月にピークを示した。これは、受験期の高校生や保護者による出願先大学の決定を控えた時期にあたり、大学ごとの情報収集する動きが活発化したことが要因と考えられる。「大学院進学を目指す皆さんへ」は安定した閲覧数

があり、2025年4月に閲覧数がピークに達した。新年度開始時期に大学院進学を検討している学生・社会人への関心を反映していることが推察される。「高校生の皆さんへ」「国臨教とは」「国際交流」は閲覧数がおおよそ横ばいであり、分析期間を通じて安定したアクセスが見られた。

5. 閲覧ユーザー数の推移

閲覧ユーザー数の推移を日別にまとめた(図3)。年間を通じて緩やかな増加傾向が認められ、特に2024年度は2025年1月20日前後において顕著な増加が観察された(図3)。この急増は、2025年1月18日～19日に実施された大学入学共通テストの時期と一致しており、多くの受験生が自己採点結果に基づいて本格的な志望校選択の段階に入り、情報収集が活発化したことを反映した結果と推察される。今後も同様の時期に情報需要の増加が予想されるため、受験シーズンに向けた情報更新やコンテンツ充実の重要性が示唆される。

6. 今後のホームページ運営と改善に向けて

以上の分析を踏まえて、今後のホームページの



図3 閲覧ユーザー数の推移(日別)

運営における改善方針として、以下の点が重要と考えられる。

- 高校生向け・大学院進学を目指すページにおけるFAQ(よくある質問)、入試情報等の追加
- 卒業生の進路実績や体験談、就職先に関する詳細データの提供
- Instagram、X(旧 Twitter)等のSNS との連携
- 動画コンテンツやインフォグラフィックスにより情報を視覚化し、教育内容や臨床検査技師の業務内容をより分かりやすく情報提供
- 教員紹介ページの定期的な更新と研究成果の発信強化
- ホームページを通じた大学間交流、国際交流、教員・研究者間交流の実績と発信

IV. 結語 今後の展望

国臨教ホームページは2024年4月の開設から1年半が経過し、閲覧者数は右肩上がりが増えていく。特に「高校生の皆さんへ」「大学院進学を目指す皆さんへ」といった進学志望者向けコンテンツの効果により、臨床検査技師養成課程への理解促進と受験者の質的向上に一定の効果が認められる。これらのコンテンツは、医療現場での臨床検査技師を目指す学生のみならず、研究者や企業への就職を志望する学生にとっても有益な情報を

提供しており、臨床検査技師教育の発展と質的向上に寄与している。

さらに、教員紹介ページの運用開始以降、学外非常勤講師の依頼、共同研究パートナーの発見、教員公募時の情報発信・収集など、人的交流や研究活動の促進に関する具体的な活用事例が増加している。2026年1月の教員紹介ページ一般公開により、国立大学のみならず、私立大学、短期大学、専門学校など、多くの方にホームページを閲覧いただき、国立大学教員とのネットワークの拡充につながることを期待する。

本ホームページは、臨床検査技師教育全般の基盤情報を網羅する日臨教ホームページに対し、国立大学が担う「研究を通じた知の創出」や「高度専門人材の育成」に特化した情報を補完的に提供する役割を担っている。日臨教が養成教育の標準化や臨床検査に関する教育・調査事業など広範な情報を発信する一方で、本ホームページは各大学の研究者や研究シーズの可視化、大学院進学を含む研究・キャリア情報の提供に重点を置き、機能的な棲み分けを図っている。

今後は、ホームページの機能やコンテンツの充実に加え、日臨教ホームページとの相互リンクや情報の重層化を通じた相互補完的な連携を強化していく。これにより、利用者は養成教育の基本情

報から高度な研究・キャリア情報までをシームレスに取得でき、幅広い利用者への情報提供、満足度の向上、学校間・産学連携の促進につながる事が期待される。また、アクセス解析データの詳細な分析により、利用者のニーズをより精確に把握し、コンテンツの改善を図ることも重要である。

国臨教ホームページは、国立大学に特化した情報を基盤としつつも、すべての臨床検査技師養成校にとって活用可能な共有プラットフォームとして機能している。日臨教と国臨教がそれぞれの特性を活かした発信媒体を維持・発展させることで、情報の役割分担と相互補完が進み、臨床検査教育界全体の情報発信力の強化に直結する。今後も継続的な改善を通じて、臨床検査技師教育のさらなる発展と、医療の質向上に貢献することが期待される。

V. 謝 辞

国臨教ホームページの企画、コンテンツ作成、各大学における情報の取りまとめなど、多大なるご尽力をいただきました、国臨教 理事会および将来問題検討 WG の諸先生方に心より感謝申し上げます。また、本ホームページのデザイン・構成・開設作業にご尽力をいただきました、株式会社グルーウェブの皆様に厚く御礼申し上げます。

COI 開示

本論文に関して、開示すべき COI 関係にある企業等はありません。